

A scenic view of Odawara Castle, a white stone structure with a blue roof, surrounded by lush greenery and numerous cherry blossom trees in full bloom. The castle is situated on a hill overlooking a river. The sky is clear and blue. The cherry blossoms are in various stages of bloom, with some fully open and others just starting. The river reflects the surrounding scenery.

第2回おだわらデジコン城下町

(全国学生デジタルまちづくり コンテスト2024 in ODAWARA)

小田原市、小田原市デジタルイノベーション協議会事務局

説明の流れ

1. 小田原市の紹介
2. コンテストの概要
3. スケジュール
4. 応募方法
5. 提案のための参考資料等

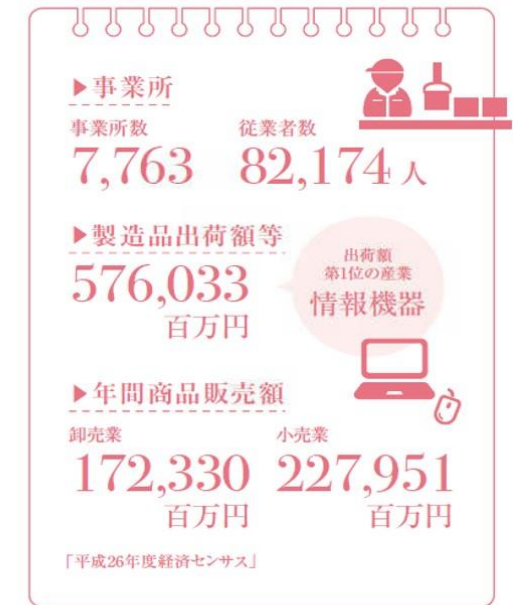
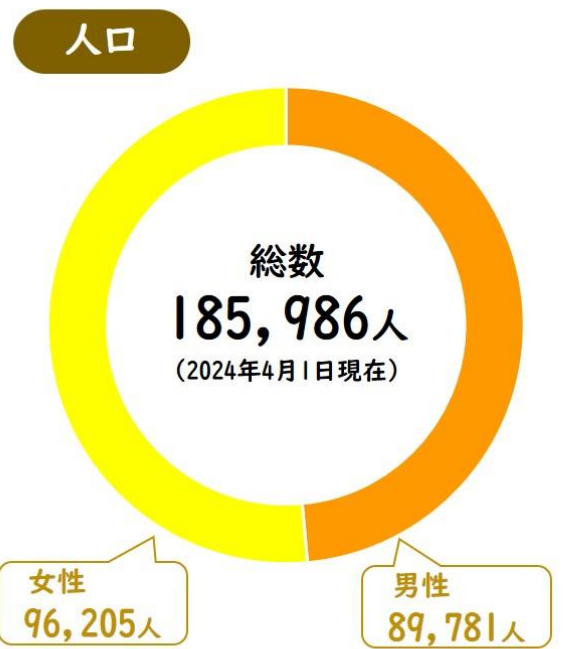
説明の流れ

- 1. 小田原市の紹介**
2. コンテストの概要
3. スケジュール
4. 応募方法
5. 提案のための参考資料等

小田原市の紹介

小田原市について

小田原市は、人口約186,000人。神奈川県の南西部に位置し、北西部を丹沢・箱根山系、南部を相模湾に囲まれた、県西地域の中心都市。東京から約30分程度であり小田原城などの観光資源や、海や山などの自然環境にも恵まれている。



小田原市の紹介

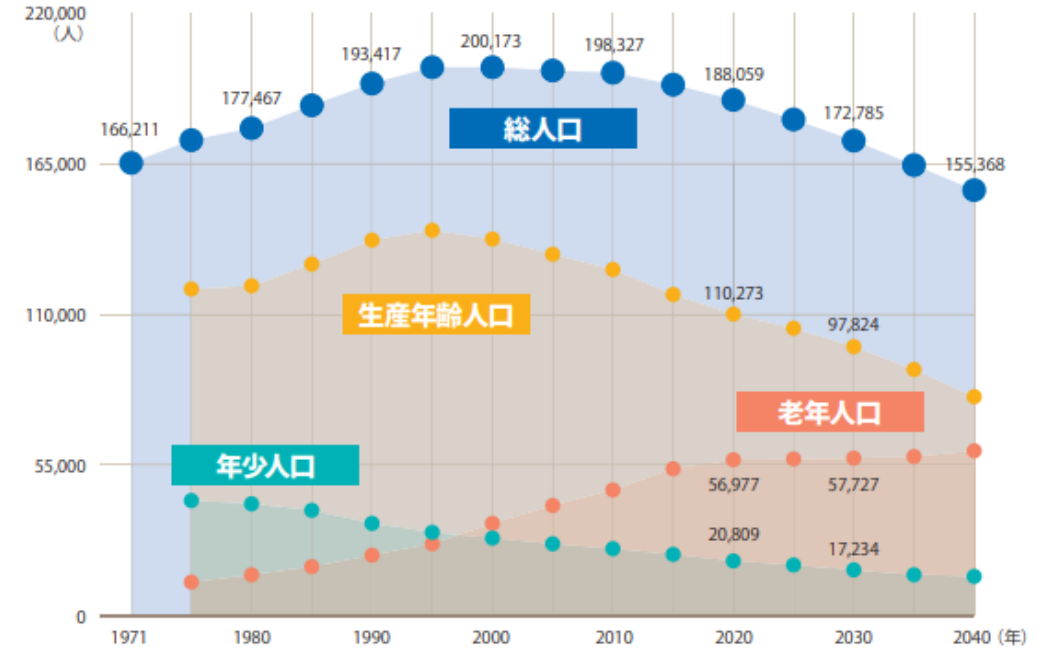
取り巻く状況

- 市税については、近年330億円程度で推移。一方で生産年齢人口の減少などにより、増収を見込むことは困難。
- 歳出面では、高齢化により扶助費は増加傾向。また、老朽化が進む公共施設の更新なども想定されている。
- 本市の総人口は、1999年の20万人をピークに減少傾向。2030年の推計人口は17.3万人とされており、2015年から2045年にかけての年齢別人口構成の推計は、老年人口（65歳以上）が9.8%増加する一方で、生産年齢人口（15歳～64歳）は36.8%減少、年少人口（0歳～14歳）は38.7%減少するとされている。

行政に求められるもの

- 多様化するニーズを捉えた市民サービスの維持向上、扶助費の増加等の対応に向けて、企業誘致の促進や多様な働き方環境の整備により雇用を創出する
- 本市に人を呼び込み、行政の基盤となる人口を増加させ、税収の増加やまちのにぎわい等につなげる好循環を生み出す

本市の人口推移



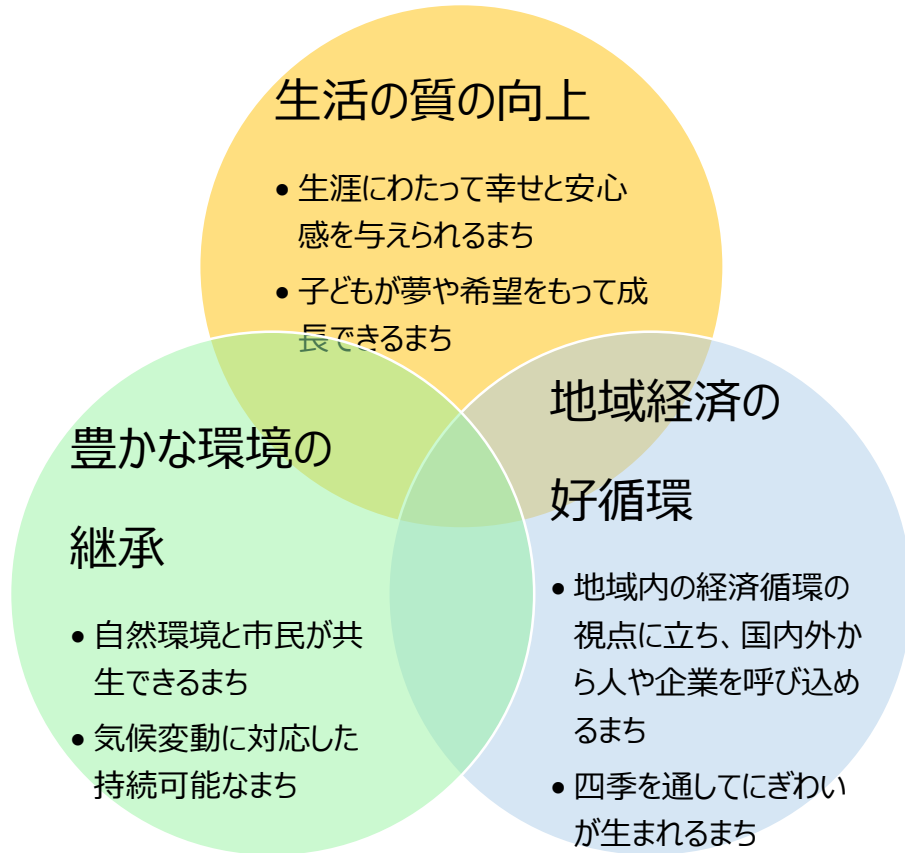
本市の人口推計

【2019年までは市統計月報、2020年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」(平成30年推計)】

小田原市の紹介

小田原市の2030年に目指すすがたと主な施策～「世界が憧れるまち“小田原”」

「豊かな環境の継承」を土台に、「生活の質の向上」と「地域経済の好循環」を具現化することを目標に掲げ、社会の変化に対応した取組を的確かつ迅速に推進することで、小田原に人や企業を呼び込み、人口20万人規模の都市を目指す。



7つの重点施策

1 医療・福祉

- (1)安心の地域医療体制
- (2)地域共生社会の実現
- (3)健康寿命の延伸

2 防災・減災

- (1)地域における国土強靱化の推進
- (2)地域防災力の強化

3 教育・子育て

- (1)質の高い学校教育
- (2)子ども・子育て支援
- (3)幼児教育・保育の質の向上

4 地域経済

- (1)企業誘致の推進
- (2)多様な働き方環境の整備
- (3)地域資源を生かしたビジネス展開

5 歴史・文化

- (1)歴史・文化資源の魅力向上による交流促進
- (2)文化・スポーツを通じた地域活性化
- (3)世界とつながる機会の創出

6 環境・エネルギー

- (1)再生可能エネルギーの導入促進
- (2)地域循環共生圏の構築と森づくり

7 まちづくり

- (1)小田原駅・小田原城周辺のまちづくり
- (2)地域特性を生かしたまちづくり

25の施策

- | | | | | |
|---------------|--------------|------------|-----------------|--------------|
| 1 地域福祉・多様性の尊重 | 6 消防・救急 | 11 教育 | 16 観光 | 21 資源循環・衛生美化 |
| 2 高齢者福祉 | 7 防災・減災 | 12 働く場・働き方 | 17 歴史資産 | 22 都市整備 |
| 3 障がい者福祉 | 8 安全・安心 | 13 商業・地場産業 | 18 文化・スポーツ・生涯学習 | 23 住環境の形成 |
| 4 健康づくり | 9 地域活動・市民活動 | 14 農林業 | 19 脱炭素 | 24 道路・交通 |
| 5 地域医療 | 10 子ども・子育て支援 | 15 水産業 | 20 自然共生・環境保全 | 25 上下水道 |

3つの推進エンジン

1. 行政経営

2. 公民連携
若者女性活躍

3. デジタルまちづくり

小田原市の紹介

小田原市の2030年に目指すすがたと主な施策～「世界が憧れるまち“小田原”」

デジタルまちづくりについて

3つの推進エンジン

1. 行政経営

2. 公民連携
若者女性活躍

3. デジタルまちづくり

詳細施策1 行政基盤のDX

- 電子申請システムの運用
- 窓口のキャッシュレス化
- 文書管理・電子決裁システムの導入

- 行政手続のオンライン化・ワンストップ化の推進
- 基幹業務や庁内ネットワークシステムの運用
- 電子申請や公共施設予約システムの運用

詳細施策2 デジタル化を通じた新たな価値の創造

- デジタルイノベーション協議会との連携による地域のデジタル化
- 市民向けデジタル活用支援事業の推進
- 東京大学大学院情報学館等との共同研究

- デジタルサイネージによる情報発信
- 公衆無線LAN（Wi-Fi）等の環境整備促進

詳細施策3 スーパーシティ・デジタル田園都市等の推進

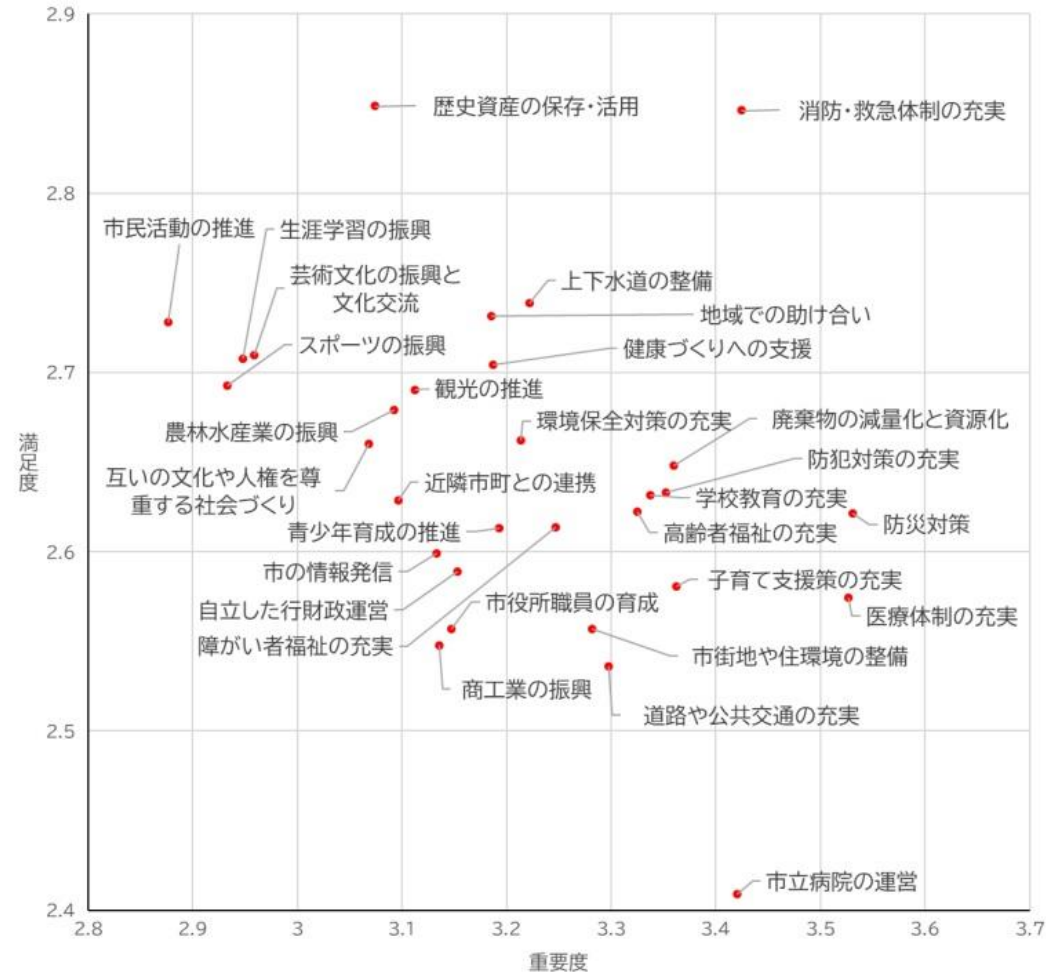
- データ連携基盤の整備
- 先端的サービス・先進的サービスの実装
- デジタル技術を活用した災害情報の迅速な把握と市民への伝達
- 「書かない窓口」等の住民異動手続のスマート化

- デジタルミュージアムの創設
- 新たな移動手段の実現
- ライフラインデータの把握と防災や福祉等の各分野における活用
- 規制改革による再生可能エネルギーの大幅な生産拡大

小田原市の紹介

市民意識調査（まちづくりに関する市民アンケート）

施策30項目に対する満足度・重要度



<満足度・重要度の上位5項目及び下位5項目>

満足度			
上位	17	歴史資産の保存・活用	2.84
	9	消防・救急体制の充実	2.84
	25	上下水道の整備	2.74
	1	地域での助け合い	2.73
	26	市民活動の推進	2.72
下位	29	市役所職員の育成	2.57
	23	市街地や住環境の整備	2.56
	14	商工業の振興	2.55
	24	道路や公共交通の充実	2.55
	6	市立病院の運営	2.41

重要度			
上位	8	防災対策	3.53
	5	医療体制の充実	3.53
	9	消防・救急体制の充実	3.42
	6	市立病院の運営	3.41
	22	廃棄物の減量化と資源化	3.36
下位	17	歴史資産の保存・活用	3.07
	18	芸術文化の振興と文化交流	2.96
	19	生涯学習の振興	2.95
	20	スポーツの振興	2.94
	26	市民活動の推進	2.89

※施策名の隣にある数字は施策番号

説明の流れ

1. 小田原市の紹介
- 2. コンテストの概要**
3. スケジュール
4. 応募方法
5. 提案のための参考資料等

コンテストの概要

目的について

- 全国の学生に、デジタル技術を活用した地域活性化について考える機会、経験の場の創出
- デジタル技術による地域の課題解決や経済の活性化、また市民生活の向上
- 次世代のデジタル人材の育成

コンテストの概要

応募資格について

- (1) 国内の高等学校、高等専門学校、大学、大学院、短期大学、専修学校高等課程、専修学校専門課程及び専修学校一般課程に在学する学生
- (2) 個人・団体は問いません

コンテストの概要

募集内容について

デジタル技術を活かした本市の地域課題の解決・貢献等につながる事業プラン

以下の視点を踏まえ作成

- (1) 課題の抽出、提案内容が市、スマートシティ・インスティテュートの地域幸福度指標（LWCI）や、RESASのデータなどに基づき適切かどうか（※）
- (2) 新規性、計画具体性、事業計画性、地域性、実現可能性、インパクトの妥当性
- (3) 市が保有するデータ連携基盤（都市OS）との連携による親和性
- (4) 小田原市民のWell-beingの向上

※課題抽出、提案作成に当たっての主な参考資料

- ① 第6次小田原市総合計画「2030ロードマップ1.0」
- ② スマートシティ・インスティテュートの地域幸福度指標（LWCI）
- ③ RESAS（地域経済分析システム）

コンテストの概要

審査について

一次審査結果通知

7月下旬頃

事務局及び審査員による書類審査で一次審査通過者3者を選定。

※一次審査通過者の事業プランの概要を小田原市ホームページに掲載



最終審査

10/14

一次審査通過者によるプレゼンテーション
(プレゼンテーション：13分、質疑応答：10分)

開催日：令和6年10月14日（祝・月）

開催場所：おだわら市民交流センターUMECO

審査結果：当日発表し、表彰式を実施

コンテストの概要

審査員は下記の6名



守屋 輝彦

小田原市長



越塚 登

東京大学大学院
情報学環教授



南雲 岳彦

一般社団法人
スマートシティ・インスティテュート
専務理事



受川 裕

一般社団法人
スマートシティ社会実装
コンソーシアム理事



野口 謙吾

一般社団法人
日本アセットマネジメント
協会理事



島崎 凜

第1回おだわら
デジコン城下町
最優秀賞受賞

コンテストの概要

表彰について

最優秀賞

50万円

優秀賞

30万円

入賞

5万円

説明の流れ

1. 小田原市の紹介
2. コンテストの概要
- 3. スケジュール**
4. 応募方法
5. 提案のための参考資料等

スケジュール

エントリーシート提出期限
7/16(火)



一次審査結果通知
7月下旬頃



**事業プランのブラッシュアップ
8月頃～9月頃**



最終審査
10/14(月・祝)

一次審査通過者は、 企業や専門家と事業プランのブラッシュアップ

- ・小田原市デジタルイノベーション会員企業等とのブラッシュアップ
※8月上旬にマッチング
※ブラッシュアップ期間は8月頃～9月頃
- ・専門家とのブラッシュアップ
Improvement Dialogue (向上的対話)
※ブラッシュアップ期間は9月下旬頃を予定

説明の流れ

1. 小田原市の紹介
2. コンテストの概要
3. スケジュール
- 4. 応募方法**
5. 提案のための参考資料等

応募方法

エントリーシート等の入手方法について

小田原市のホームページからエントリーシート等をダウンロード
(URL) <https://www.city.odawara.kanagawa.jp/field/municipality/digital/council/p38051.html>

The screenshot shows the official website for the '2nd Odawara Digital City Contest (National Student Digital Making Contest 2024 in ODWARA)'. The page includes a header with the city logo and name, a search bar, and a navigation menu. The main content area features the contest title and a brief description. Below this is a table with application details:

応募資格	(1)国内の高等学校、高等専門学校、大学、大学院、短期大学、専修学校高等課程、専修学校専門課程及び専修学校一般課程に在学する学生 (2)個人・団体は問いません
募集内容	デジタル技術を活かした本市の地域課題の解決・貢献等につながる事業プラン
審査基準	(1)課題の抽出、提案内容が市、スマートシティ・インスティテュートの地域幸福度指標(LWCI)や、RESASのデータなどに基づき適切かどうか

On the right side of the page, there are sections for 'お役立ちサービス' (Useful Services) and 'おすすめサービス' (Recommended Services), each with a list of links to various city services.

実施要領、エントリーシート

 [実施要領 PDF形式 :292.1KB](#)

 [エントリーシート ワード形式 :21.6KB](#)

 [エントリーシート PDF形式 :153.1KB](#)

 [エントリーシート添付書類 ファイル形式 :35.3KB](#)

 [エントリーシート添付書類 PDF形式 :16KB](#)

エントリーシート、
エントリーシート添付書類
をダウンロード

応募方法

エントリーシートについて

< 記入項目 >

- 1 提案者情報
- 2 提案内容等
 - (1) 提案名
 - (2) 提案に至った背景・課題
 - (3) 提案の対象
 - (4) 提案内容
 - (5) データ連携基盤との連携
 - (6) 小田原市民のWell-beingの向上
 - (7) アピールポイント

応募方法

エントリーシート添付資料の作成

(提案名)	
提案者	
提案概要	

← **提案名、提案者は
エントリーシートの記載と
合わせてください**

← **提案概要には、
提案内容を簡潔にまとめた
ものを記入してください**

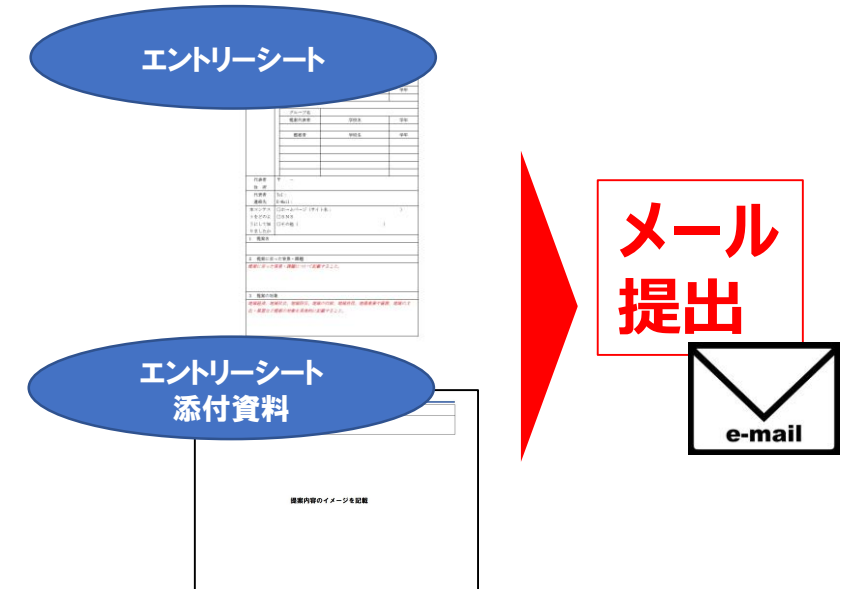
提案内容のイメージを記載

← **イメージ記載欄には、
画像等を活用するなど、視覚的に分かり
やすいものとしてください**

応募方法

エントリーシート等の提出について

- ・ 提出方法 メールにファイルを添付して送信
※メールの件名は、「【コンテスト提案】提案名_〇〇〇〇〇」
としてください。（〇〇〇〇〇は、提案者名又はグループ名）
- ・ 提出期限 7月16日（火）必着
- ・ 提出先アドレス
digi-machi@city.odawara.kanagawa.jp



問合せ先

小田原市デジタルイノベーション協議会事務局

（小田原市役所デジタルイノベーション課デジタルまちづくり係 担当：森谷）

電話番号：0465-33-1733

メールアドレス：提出先アドレスと同じ

説明の流れ

1. 小田原市の紹介
2. コンテストの概要
3. スケジュール
4. 応募方法
- 5. 提案のための参考資料等**

提案のための参考資料

デジタルを活用し、おだわらを盛り上げるサービスやアイデアを募集します！

課題



あるべき姿



提案のための参考資料

【参考】 政府が進めるデジタル化 スマートシティについて（デジタル田園都市国家構想）

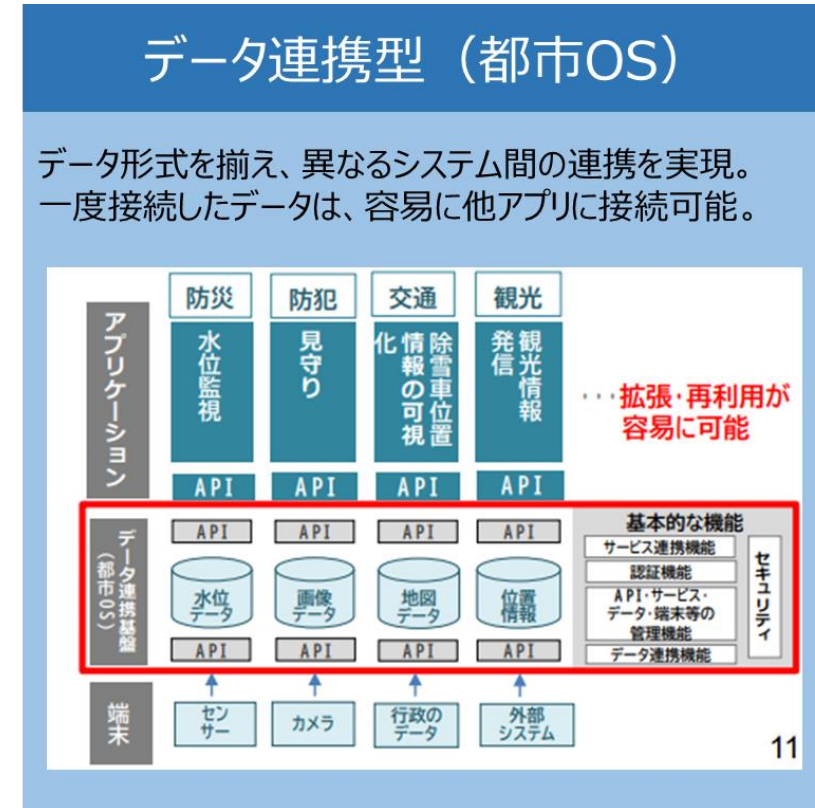
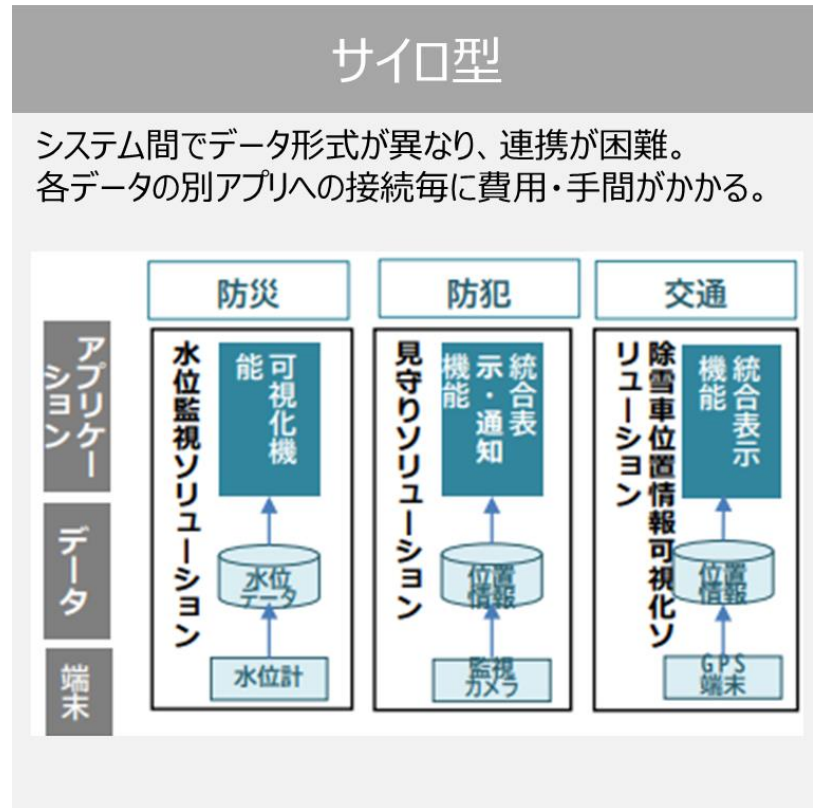
スマートシティは、デジタル新技術や取得した各種データを活用することで効率化・新サービスの提供、マネジメントの高度化等を可能とし、地域が直面している社会課題（人口減少、高齢化、災害、感染症リスク等）の解決につなげるとともに、心豊かな暮らしや持続可能な社会の実現を目指す。



提案のための参考資料

スマートシティとデータ連携基盤（都市OS）について

スマートシティに取り組むうえで、データ連携基盤（都市OS）による相互運用性を重要な原則としている。これまでの、各分野ごとのデータ活用に留まっており連携が困難であったが、データ連携基盤（都市OS）を導入することによりデータの効率的な収集・管理や、分野間・都市間での相互運用（連携）が可能となる。各分野のデータを既存サービスの深化や新サービス創出に活用することで、住民利便性の向上等につながる。



提案のための参考資料

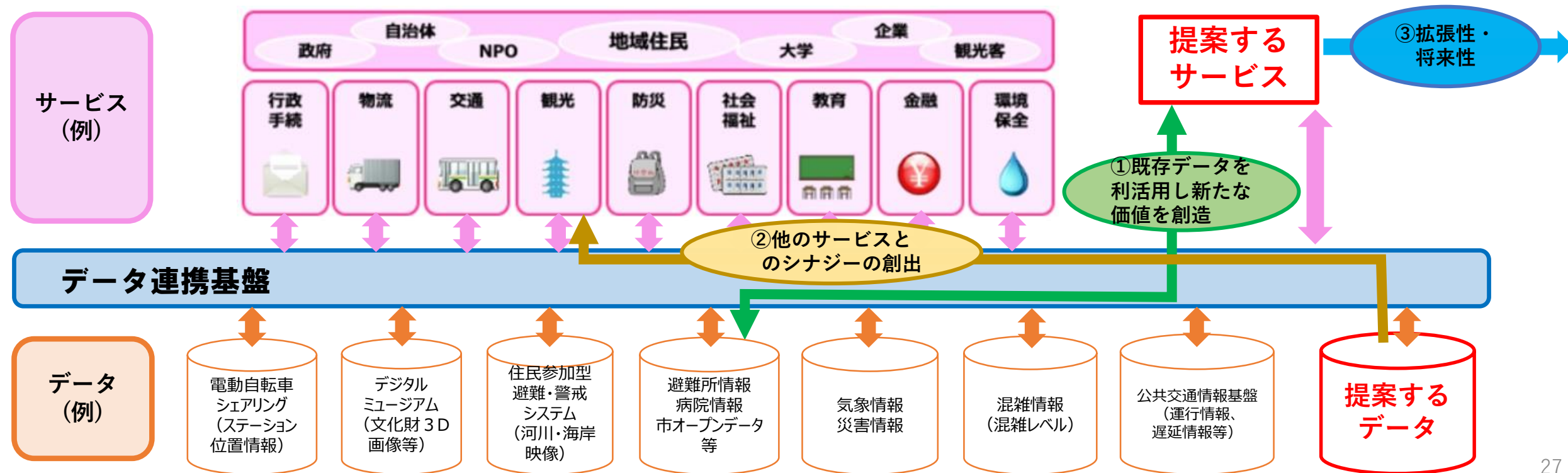
エントリーシート

2 提案内容等

(5) データ連携基盤との連携 について

データ連携基盤との連携により、

①本市が保有するデータを利活用した、新たな価値を創造するサービスであること。②または、提案するデータを利活用し他サービス（既存サービス等）とのシナジーを創出すること。③あるいは、拡張性・将来性（サービス分野の増加、他都市との連携等）のあるサービスであること。



地域幸福度指標（LWCI）について

地域幸福度(Well-Being)指標とは、市民の「暮らしやすさ」と「幸福感（Well-being）」を指標で数値化・可視化したもの。

市民一人ひとりが、デジタル化・スマート化は自分にとってどういう意味があるかを理解するためにも、デジタル化・スマート化に伴う心豊かな暮らしの変化を可視化することを目指しています。

Smart City Institute Japan

法人概要 | エグゼクティブアドバイザー | 会員一覧 | イベント・報告 | 入会案内 問い合わせ | ENGLISH | 会員サイト ログイン

地域幸福度(Well-Being) 指標 (Liveable Well-Being City指標®)

ダッシュボード
データダウンロード
アンケート設問票
お問合せはこちら

地域幸福度 (Well-Being) 指標とは
利活用ガイドブック
ダッシュボード
データダウンロード
アンケート設問票

■一般社団法人スマートシティ・インスティテュートのホームページ
(URL:<https://www.sci-japan.or.jp/LWCI/index.html>)

提案のための参考資料

なぜWell-Beingなのか？

デジタル田園都市国家構想が目指す目標として「Well-being」が位置付けられている

- ・地域の「暮らしや社会」、「産業や研究開発」、「産業や経済」をデジタル基盤の力により変革し、
- ・「大都市の利便性」と「地域の豊かさ」を融合した「デジタル田園都市」を構築。
- ・「心ゆたかな暮らし」(Well-being)と「持続可能な環境・社会・経済」(Sustainability)を実現。

地方の魅力をそのままに、都市に負けない利便性と可能性を



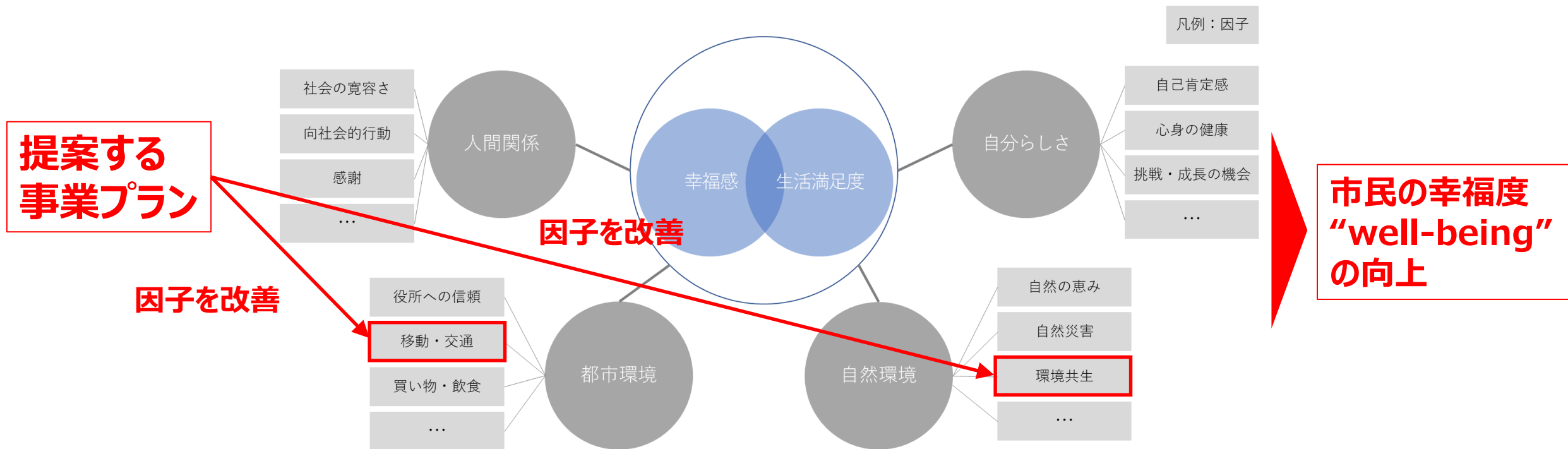
提案のための参考資料

エントリーシート

2 提案内容等

(6) 小田原市民のWell-beingの向上 について

ウェルビーイングの実現に関しては様々な因子が存在。
デジタル技術を活用した事業プランによって因子を改善し、ウェルビーイングの向上を目指す。



提案のための参考資料

RESAS（地域経済分析システム）について

地方創生の様々な取り組みを情報面から支援するために、産業構造や人口動態、人の流れなどの官民ビッグデータを集約し、可視化するシステム。

（経済産業省と内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議事務局が提供）

自治体職員や、地域の活性化に関心を持つ様々な分野の方によって、効果的な施策の立案・実行・検証のためなどに広く利用。



- RESAS（地域経済分析システム）のホームページ
(URL:<https://resas.go.jp/#/13/13101>)

第2回おだわらデジコン城下町

(全国学生デジタルまちづくりコンテスト2024 in ODAWARA)

**みなさんからのご応募を
お待ちしております！**

